

水産

水産事務所 相馬駐在

平成26年度採用

わたしを表すKEY WORD

#魚が好き

「魚飼育」と「魚釣り」が好きで、大学時代には4台の水槽に様々な魚を飼育していました。

現在でも、休みは溪流釣りに行き、自然と触れあい体を動かすことで、心身ともにリフレッシュしています。

#地元は静岡県

地元は静岡県で、福島県は縁もゆかりもない土地でしたが、福島県職員を志望し現在に至ります。静岡では雪が全く降らないため、今でも雪の量には驚きます。

#公舎住み

#自然が好き

#食べることが好き



[職歴]

H26～ 内水面水産試験場 調査部

H29～ 水産試験場 漁場環境部

H30～ 水産海洋研究センター 漁場環境部

R3～ 水産事務所 相馬市駐在

水産業の復興を力強く支える！

現在、私は「水産業普及指導員」として活動しています。普及指導員は、漁業の現場と県とを繋ぐパイプ役を担っております。水産業の振興と震災からの復興のため、現場に足を運び、県の取組などを漁業関係者の皆さまに広く伝えるとともに、現場の課題を聞き取って県の施策に反映させていく仕事をしています。

こうした仕事に携わる中で、漁業関係者の支えになったと実感した時にやりがいを感じます。

県職員を目指した理由

大学の水産学部で学んだことを活かした仕事に就きたいと考え、全国の水産研究施設の採用案内を調べておりました。そうした中で福島県の「ヒラメ」・「カレイ」に魅力を感じるとともに、水産業の復興を支えていきたいと思い志望しました。



とある一日のスケジュール

8:30	産地市場の巡回指導
11:00	メールチェック 資料作成
12:00	昼休み

13:00	来庁者（漁業関係者）の対応
15:00	漁業者活動（補助事業）に関する打合
17:15	終業

印象に残っている経験



福島県の重要魚種であるイカナゴの不漁が印象に残っています。平成30年には豊漁でしたが、翌年には全く漁獲できなくなってしまい、漁業関係者はとても苦労されておりました。当時、私はイカナゴの研究担当をしていたため、こうした不漁の予測をすることで、漁業者の経営安定化につなげていきたいと感じました。

福島県職員として実現したいこと、目標としていること

日々の仕事に誠実に取り組み、現場の目線を忘れずに漁業関係者から信頼される県職員を目指したいと考えております。また、漁業関係者と協力しながら福島県産水産物の安全・安心に向けた取組や魅力を伝えていくことで、福島県産水産物のブランド化を実現していきたいです。



受験者へメッセージ

福島県の水産業は復興に向けて日々変化しており、変化に対応するために忙しい時もありますが、ワークライフバランスを大事にしながら一緒に働いていければと思います。